

内灘砂丘復元竹垣づくりについて

【概要】

実施主体のクリーンビーチ内灘作戦は、平成7年より4月～10月の期間中毎月1回程度内灘海岸（砂丘）のボランティア清掃活動を実施し、環境保全に努めてきました。そして、平成20年より体制を改変し、清掃活動に加えて内灘砂丘復元のための竹垣づくり活動を開始しました。

内灘砂丘復元の竹垣づくりは、山で不要となり処分に難儀する竹の有効利用という側面をもち、間伐に係る山のボランティアと、海のボランティアが協働した活動を行うというユニークな取組みとなっております。また、地域住民をはじめとした地域の団体や学校との交流が生まれており、竹垣づくりや海岸清掃を通して、内灘砂丘に対する愛着が深まっています。

【主な活動状況】

○内灘砂丘復元のための竹垣づくり（各100m設置）

第1回 平成20年 4月24日 第2回 平成20年 7月27日

第3回 平成20年10月13日 第4回 平成21年 4月26日※悪天候のため中止

第5回 平成21年 7月26日 第6回 平成21年10月 4日

第7回 平成21年12月 5日

※竹垣に間隔があるため、延長で考えれば500mの竹垣が2本平行に設置済となります。

○竹切出し及び竹割（随時実施）

○海岸清掃（4月～10月の期間中毎月1回）

【内灘砂丘復元活動にあたっての協力団体】

内灘町社会福祉協議会、石川フォレストサポーター会、金沢大学・角間の里山メイト
河北森づくりの会、くりから竹笛工房、石川工業高等専門学校、世界の砂漠を緑で包む会
林ベニヤ産業、石川県、内灘町

21年12月6日

中日新聞 朝刊

竹垣づくり 手際良く



内灘砂丘復元に取り組む内灘町のボランティアグループ「クリーンビーチ内灘作戦」の竹垣づくりが五日、内灘海水浴場そばであり、三時間の作業で約百メートルを新たに設けた。(山森保)

内灘砂丘の復元へ団体奉仕

100延長

森林ボランティアの石川フオレストサポーター会、世界の砂漠を緑で包む会のメンバーを含め約七十人が参加。竹垣は高さ一・五メートルあり、支柱に針金で横木を固定し、割竹を差し込んで作る。今年四回目で、昨年から通算七回目の作業とあって、参加者は手際よく仕上げていった。

四日に「砂丘復元」と林ベニヤ産業(大阪市)から無償提供を受けた間伐材の棒一万本の利用法についても実地検討した。

竹垣は二列に巡らしてあり、これで延べ八百メートルとなった。昨年設置した竹垣は大半が砂に埋まって小高い砂丘になっている。同グループの野村輝久代表は「頑張った分だけ、確実に成果が表れている」と手応えを話していた。

竹垣づくりに助く
住民などのボラン
ティアー内灘町で